

令和元年

奥州市総合教育会議
会議録

第1回定例会 8月26日開催

奥 州 市

1 開会、閉会等に関する事項

開催日時 開会 令和元年 8 月 26 日（月）午後 3 時 30 分

閉会 令和元年 8 月 26 日（月）午後 5 時 15 分

開催場所 市役所本庁 6 階 601 会議室

2 出席者の職及び氏名

小 沢 昌 記 市 長

及 川 新 太 副市長

田面木 茂 樹 教育長

吉 田 政 教育長職務代理者

高 橋 キ エ 教育委員

及 川 憲太郎 教育委員

藤 田 登茂子 教育委員

3 説明のため出席した職員

（教育委員会事務局）

千田良和教育部長、千田淳一教育総務課長、朝倉啓二学校教育課長、

千葉達也学校教育課主幹、鈴木常義歴史遺産課長

（協働まちづくり部）

千田布美夫部長、二階堂純生涯学習スポーツ課長

事務職員出席者：菊池長教育総務課長補佐

4 主要議題

奥州市の教育施策に関する意見交換

- ・家庭教育力を高めることについて
- ・子どもたちが健やかに育つ環境づくりについて

5 協議の概要

開会、市長・教育委員長挨拶、主要議題の協議

第 1 開会

千田教育部長が開会を宣言

以降の日程のうち第 3 までは千田教育部長が進行、第 4 以降についてはテーマに従い吉田教育長職務代理者、高橋委員が座長となり議事を進行。

第 2 市長挨拶

今回は、教育委員の皆様が課題ととらえている二つのテーマについて意見交換を行うこととした。

「家庭教育力を高めることについて」は、昨今、親や地域の関わりが薄くなり、子どもの生きる力も同時に低下している問題についてであり、もう一つの、「子どもたちが健やかに育つ環境づくり」は、学校支援地域本部活動の充実な

どについて意見交換するものである。お集まりいただいた教育委員各位と意見交換しながら課題解決の方向性を探って参りたい。

その他、出席者各位より教育施策全般について御提言いただき、本市の教育における方向性の明確化や、具体的な施策への反映を図ってまいりたい。

第3 田面木教育長挨拶

平成27年4月の地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正に伴い、開催することとされた会議である。年度において2回の定例会を開催することとしているが、これまでの会議においては、奥州市教育振興基本計画を市の教育における大綱に位置付けることの決定や、市の教育における重点施策である『学力向上』と『健全育成・生きる力を育むこと』、また、市立教育施設等の再編といったテーマに対して、市長及び教育委員各位より意見をいただいていた。

今回は奥州市の児童生徒の「心豊かでたくましい青少年」を育む上で課題である「家庭教育力を高めることについて」と「子どもたちが健やかに育つ環境づくりについて」の二つのテーマとして、出席者各位より意見を頂戴し、奥州市の教育における方向性の明確化や、具体的な施策への反映を図ってまいりたい。

第4 協議事項

1 家庭教育力を高めることについて（座長は吉田教育長職務代理者）

吉田教育長職務代理者

昔から家庭教育力については言われてきた。私は、奥州市の子どもの育成のため、家庭教育力の在り方を考えていきたい。家庭教育力はカリキュラムがなく、強制されるべきものでもないが誰でも参加できる。昔と違い現状は変わってきている。最近は同じ敷地内に2棟の家が建つなど核家族化が進んでおり、共働きが多く親子関係も希薄になってきている。その中で、親の考え方にどう関わっていけば良いか。家庭でのしつけがなされていない。例えば、修学旅行で風呂場の入口の靴が散らばっているから直すように指示をすると、濡れたままで直す。スマホ、ゲームはやりっ放しで昼夜逆転している。親がルールを徹底しておらず、基本的な生活習慣がなっていない。学校ではそこまで指導や対応はできない。しつけなどはどこで誰がやるのか、家庭教育はどうすれば良いのかが課題となっている。市の社会教育部門が教育委員会からまちづくり部に移り、これまで公民館で研修をした職員が担当していたものが、今は委託された職員が担当している。家庭教育について啓発されていたものが薄くなっていると感じる。このことはどうすれば良いのか。今、家庭の教育力を高めることが本当に必要と思うが、どのようにすれば良いのか意見を交換したい。

及川副市長

私は母一人で育てられてきた。家庭教育、学校教育、職場教育が必要と考えるが、特に職場教育が必要と思う。

及川委員

私は幼稚園などで挨拶するとき、「育児は育自」と話している。親も謙虚でないとダメ。のびのびという理由で叱らないのは違う。また自分の感情だけで叱る場面もある。三世代同居であればそのようなことは少ないと聞く。自分は公共の場でユーチューブを見せて時間を過ごすこともある。教育力を高める必要はあるが、シンポジウムをやっても意識の高い人しか来ない。少子高齢化が進み、一人で悩みを抱える時代になったので、地域やチームを組んで支え合うことが必要と思っている。

藤田委員

共働きが多く、遅い時間に買い物に行っても小さな子どもと一緒に買い物をしている。朝に起きられなくなり、朝食抜きで学校に出るという悪循環が起きている。朝食を摂らないと勉強に身が入らない。共働きで家庭教育が二極化している。核家族化が進み、気軽に相談できない。隣近所、行政もハードルが高くなっている。近くに親戚もいないので、ネットで情報を得ている。

高橋委員

家庭教育が基本だと思うが、基本的なことができなくなっている。夕飯の時間が遅くなり、生活習慣が乱れている。小さい子の面倒を見ることができないまま大人になっている。中学校の時から幼稚園児に接する等、意図的に子どもと接する仕組みが必要ではないか。親もどこに相談して良いか分からずに孤立していく。悩みをどこに相談すれば良いか分からない。相談する場所があっても行く時間がない。どこかに自分の悩みを打ち明けられる体制が必要ではないか。男性も育児に参加し、職場も子育てがしやすい環境づくりが必要ではないか。

田面木教育長

昔と今では状況が変わっている。親に過去の話をして通じない。子どもにたくましがほしい。たくまさを身につけるにはどうしたら良いか。ほめながら人を育てることが必要だ。大人が手をかけすぎているので、自主性を失ってきている反面、好き放題やっているところもある。大人がある程度厳しく教えていくことが必要。皆忙しすぎる。親をどのようにサポートしていくかが課題。家庭教育学級を開いても良い親は来る。来れない親をどのようにサポートしていくか。子ども達には自分の意見をしっかりとって、聞くことができるように指導している。

小沢市長

個人個人の状況に合わせた指導が必要。褒めるときには褒め、怒るときには怒る。学校で教えられる事と出来ない事ははっきりさせる事が必要。担任の先生に1カ月に1回通知表を出すのはどうか。今まで笑っていた生徒が急に笑わなくなったなど、より細かな情報を教師がキャッチしてもらえるようになる。学校の教育力と地域の教育力を活用しなければならない。違いを認めてやる事が、理解されていく事に繋がる。旦那さんが買い出しをする、子どもに洗濯をさせることも大事。日曜などに親の経験談を発表する場を学校で開催する事も必要ではないか。新米の親は非常に参考になると思う。学校でやることを教育委員会でサポートする事もできる。子育てに対する社会全体の理解が極めて希薄化している。違いを認める、皆一緒になくていい、違

って当たり前という社会になればよい。違いを認めた限りは自分で道を開かなければならないということを教える。1学期に1回程度、成長の記録を親に話す機会を設けて親に関心を持ってもらい、体験談発表などで一緒に勉強することができれば、違ってくるのではないか。親でなくても違いを認めたり怒ったりして子供を育てるムーブメントをつくっていくことも必要。

吉田教育長職務代理者

子どもが変われば親も変わる。市長のご意見は今の担任の状況からすると難しいものもあると思うが、それをやれば家庭と学校が繋がる事になるし、教育に関心を持ってもらえと思う。

田面木教育長

違いを認める事は学校でも取り組んでいる。働き方改革で、学校でやるべき事と、地域でやるべき事、家庭でやるべき事の三本柱をきちんと話をしていくことが大事。新しい提案として、子どもの変化を分かるようにすることとあったが、学級通信なども出しており、それを親がきちんと見るかも課題。地域の中でも子どもが少なくなっているから、話が掛けられない。下手にかけると疑われるから言わなくなる。地域の教育力を活用しなければならないが、言えない状況もある。子どもを変えなければ親の教育力が上がらないのはその通りだと思う。まずは、違いを認める事から始める事が大事だと思う。

小沢市長

国が許すのであれば、子どもの費用を全て出すので、子どもを持てば良いという夢のような話になればいい。

田面木教育長

家庭の教育力は、各家庭でやっているし、何回もくり返し話していくことが大事。

吉田教育長職務代理者

いずれ家庭教育力は必要ということ是一緒。子育ての相談体制も必要。

小沢市長

親が変わらないと子どもが変わらないということも言える。子育てのポイントを学校から発信し、相談事があったら教育委員会で対応するほか、メールでも対応できる体制があれば、我々は一人ではないという安心感が出て子育てが楽しくなると思う。

及川委員

家庭にはそれぞれ物差しがある。私の子育てでは、それぞれの悩みを持つ同じような境遇の家庭があって、愚痴を言えたので良かった。そういう悩みを打ち明けられる場面を行政がつくってあげる、コミュニティーをつくるきっかけをつくってあげることも必要。悩みを打ち明けられる場面があればと思う。

小沢市長

親の視野が狭くなれば、親に対する尊敬より否定が始まり、子どもの可能性が狭くなる。親が楽しいという姿を見せることが大事。

田面木教育長

相談など話ができる場をつくってあげる、サークルなどの場をつくる、お茶のみ友達をつくる、そのことからスタートしていかないと長続きしない。

高橋委員

既存の子育てサークルで話を聞いてもらって、気持ちが楽になったという話も聞く。子育てサークルの育成を考えるのが行政ではないか。

吉田教育長職務代理人

学校で講演を開いても資料をつくっても、関心のある人しか興味を持たない。そこで思うのが、親が絶対に来る就学時健診の時に色々な話をしたり、三歳児健診で子育ての話しをしてはどうか。

小沢市長

母子手帳をもらったときから、いい子どもに育てる方法を教えたり、小学校に上がる前に、親として家庭の教育力を養えるような力を身につけていただくなど、親も一緒に育っていく環境づくりが必要。

吉田教育長職務代理人

子どもの生活習慣づくりのため、「早寝、早起き、朝御飯」、「深夜のスマホなどのルール」、これらを徹底すること。小学校前から独自に取り上げながら、家庭の教育力を高めることが大事。

小沢市長

吉田教育長職務代理人の意見に賛成。幼稚園、保育園で散々関わったから、小学校ではやらない親もいる。そうではないということを伝えたい。

1 : 13 : 18

テーマ：子どもたちが健やかに育つ環境づくり（座長は高橋キエ委員）

高橋委員

子どもたちが健やかに育つ環境づくりということで、家庭教育だけでは難しいことが多くなっている。社会全体の教育力の低下を補っていくことが必要だと思っている。地域の教育力についてお話ししたい。一番気になるのは基本的な生活習慣の乱れ。地域と学校と家庭が一緒になって子どもたちを育てる環境づくりが必要。

4月から週に一度、放課後子ども教室を手伝うことになった。子どもたちは元気に汗を流している姿を見ることができる。運動が苦手な子どもは折り紙等をしている。安全管理員の方も生き生きと活動しており、子どもにくつの脱ぎ方の指導もしている。朝御飯をいっぱい食べて元気に学校に行っている姿を思い浮かべることができる。放課後子ども教室のボランティアが少ないが、もっと参加いただいて一緒に活動してほしい。子どもが活躍するには、地域が関わっていくことが大切。放課後子ども教室があることすら知られていない。地域の方にももう少し関心を持ってほしい。地域の力を借りて生活習慣を見直す、社会全体で見直すことが必要ではないか。民間企業でも子育てをしやすい環境をつくっていただきたい。企業の理解が必要と感じている。子育てに悩んでいる母親は意外と多い。まじめな方は必死に考え孤立している。行政に相談できなくても、子育てサークルなどを活用してほしい。行政が子育てサークルの支援をしてはどうか。図書の本の並べ替え等学校の支援

活動に参加している方がいる。そのような活動を地域の方々に周知する方法がないのかと思う。皆さんからご意見をいただきたい。

及川委員

放課後の過ごし方が違ってきている。私が小さい頃は友達と5時まで学校で遊んだり友達の家で遊んだりして帰った。今は遊ばずにまっすぐ家に帰り、一人で家にいるので可哀相だ。放課後の過ごし方で放課後児童クラブがあるのは良い。本当は子どもたち同士で遊んでほしい。放課後児童クラブだと、見守る人の一部に過剰負担が出たり、地域によって内容に格差が出たりする。昔と同じような環境で育ててあげたいというのが率直なところ。

藤田委員

江刺甚句まつりでは屋台やお囃子があって、子どもたちの参加が伝統となっている。中学生は部活動とまつりの両立ができずに部活動を選ぶ。スタッフが少なくなり募集となる状況。スタッフを募集するが子どもたちが出られない。親は送迎で出られない。盛大にやってもらいたいのがそれができないジレンマが続いている。校長先生に聞いても部活は先生に任せているという。伝統行事が良いと思ってもそれができない。

小沢市長

部活動では一生懸命な親がいる。できない親が疎外感を受ける場合もある。5月の連休は遠出して試合を組みたくなる。子ども、親、先生も多忙となっている。

田面木教育長

伝統的な地域行事に子どもや親が出る場面は多く、大事なことだと思う。地域の年配の方が声を掛けてあげることも必要。放課後は校庭に遊んでいる子どもがいない。放課後はスクールバスの時間等があり、先生との触れ合いの時間が取れない。校庭で遊べる時間を確保した方が良いのでは。見守るのはボランティアの人たち。そこで悩んでいる子どもと相談したり、先生が授業に遅れている子どもに指導したりする。そういう時間をぜひ作ってほしい。学校としてその環境を作っていく必要がある。

吉田教育長職務代理者

健やかなの意味をどうとらえるのか。子どもに様々な活動をさせることで、たくましく育つ。幼児教育、青少年教育は昔の言葉になった。スクールバスですぐ帰り、近所で群れて遊ぶことは無くなった。10泊のキャンプを主催したことがある。予算は600万円、小学生から高校生まで50人が参加した。自分でしなければならぬ状況を経験し、たくましく変わった子どもがいた。子どもへの想いを綴った親からの手紙を渡し、ありがたさを感じて泣く子どももいた。親子の関係が断絶した子どもが改心した事例もあった。そのような環境を体験することも必要だと思う。

田面木教育長

地域支援本部は、これから進めていく方向にしていかなければならない。地域の方が入ってくることは非常に良いこと。

小沢市長

手助けをするボランティアを発掘するための情報発信や下地づくりは、行

政が担う事は効果的だと思う。

高橋委員

地域の中にはやりたい人がたくさんいる。

小沢市長

やりたい人はいると思う。老人ホームに小さな子どもたちが行くと、子どもたちよりおじいさん達の方が元気になる。エネルギーをもらう。認知症防止にもなる。

田面木教育長

学校も地域との協力を得ながら進め、家庭の教育力を高めていきたい。

高橋委員

今日は繋がっている部分があったと思う。有意義な場だった。

01 : 57 : 43

第5 その他 なし

閉会

01 : 58 : 09